

新しい流れ

★新 春高スタイル 関東への4人



最近是一般市民マラソンの大ブームに乗って、高校競技会も中長距離が盛んなようだ。加えて日本はロードレース大好き国民である。ドラマが10%を割り込む中、視聴率30%越えのアマチュアスポーツなど駅伝とマラソンくらいしかないだろう。町ではお父さんが市民ランナーであり、家族そろってジョギングをしているという環境が非常に多い。

当然、年齢の若い時期からその競技に参加している者も多く、才を開花させているランナーもいる。記録会をみても小学生で1000mを3分ちょっとで走られては、高校生もあわててしまうほどだ。

毎年、春陸の新人歓迎を見ても、中長距離希望選手がとても多い。レギュラー争いは厳しいが、当然レベルも高騰し良い環境になる。2005年当時の短距離班のようなものだ。

大塚・秋庭体制で臨んだこの春のインターハイ予選も、さすが「春陸、やるときはやる！」というOBにはうれしい結果になった。

★主将の「91」は輝く

たしか主将の高山は県新人戦で体調を著しく崩し、不本意な結果に終わった気がする。その悔しさを春にぶつけてきた。東部で17点をたたき出し、主将として気を吐いた高山は、きっちり県400mH決勝に合わせてきた。

自己ベストで入賞！関東への切符を手に入れた。



★故障を乗り越え

吉澤は県新人で4位入賞を果たしている。しかし5月の県大会は、みな競技生命をかけて死にもものぐるいで挑んでくる。関東への6枚だけの切符・・・それを獲得するために2年半、苦しい練習に耐えてきたのだから。

吉澤は故障に苦しんだようだ。私が春高会U12の練習で幾度かグラウンドを訪れた夏の間も、黙々と一人居残りドリル練習していた。気温は34度くらい。シャツは汗でびしょりであった。・・・こういう光景を見ていると、何とか関東へ行かせてあげたい・・・昔に同じ思いをしたOBとしては、そう思わざるを得ない。春先にハムストリングを軽く傷めたが、県には間に合ったようだ。



★春陸の新たな可能性



先述したように最近の春高はランナー志望が多い。一途で真面目な春高生には合っているのかもしれない。したがってレベルも上昇し、一昨年は江森先生の下で丸山（2008年）は3000SC県7位に入賞し、ついに秋庭先生の下で3000mSC大久保2位、渡辺3位入賞を果たした。大久保は昨年の関東新人で準優勝をはたしている安定感があり、決して大負けしない。この記録の触れ幅が少ないことは、インターハイへの道にきわめて有効だ。渡辺も大幅自己記録更新。この歳の伸びはすごい勢い。

1992年、竹村・工藤時代に福田、黒川、浅野の長距離トリオが活躍した。ことごとく春高記録を塗り替えた。その年の関東は駒沢オリンピック公園。竹村監督や私たちも寒くてガクガク震えている大雨の15度。5000mで福田は現、春高記録の15分6秒をマークするも入賞には一步届かなかった。この大会は埼玉栄の柿沼選手が200mで日本女性初の23秒台に突入し話題になった大会であった。

春高で関東進出は平成13年に余吾が同じく3000mSCで決めて以来、9年ぶりか・・・さらにインターハイ出場となれば1992年の800mで黒川以来だろうか・・・(今年の3年生は偶然、この年あたりの生まれか・・・また、出場履歴で間違っていたらごめんなさ・・・)

・・・しかし、この際 若き高校生に「〇〇年ぶり」という古臭い期待の仕方はやめようと思う。ただ若き春陸の活躍を様々なOBが喜んでいる・・・という事実だけでじゅうぶんだと思う。

2000m 6位

400mH 5位

5000mW 8位

3000mSC 2位 3位

計21点 総合7位

今回の入賞者はみな自己新記録と思われる。

県大会に出場した選手も、そうでなかった選手も、自らの実力を真摯に受け止め、各々が頑張っしてほしい。

自己目標に対する努力・・・これがスポーツで一番大切なことだと思う。

筆 37回 のもと 齒科